



「令和7年度全国学力学習状況調査」結果

いつも本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。令和7年度全国学力学習状況調査（6年生）の結果を報告いたします。

（1）国語について

問題の内容別正答率

分類	区分		対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	東京都	全国
全体			14	72.0	70.0	66.8
学習指導要領 の領域等	知識及び 技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	2	80.3	77.9	76.9
		情報の扱い方に関する事項	1	72.1	66.9	63.1
		我が国の言語文化に関する事項	1	82.7	83.8	81.2
	思考力、	話すこと・聞くこと	3	71.5	69.9	66.3
	判断力、	書くこと	3	71.5	72.4	69.5
	表現力等	読むこと	4	67.3	61.0	57.5
評価の観点	知識・技能		4	78.8	76.6	74.5
	思考・判断・表現		10	69.8	67.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度		0	－	－	－
問題形式	選択式		9	71.4	68.7	64.7
	短答式		3	82.1	80.0	78.5
	記述式		2	62.5	59.3	58.8

〈分析〉

国語の平均正答率は 72.0% で全国平均（66.8%）、東京都平均（70.0%）を上回りました。文章を読み取る力や言葉の理解、資料や情報の扱いにおいて高い成果が見られ、読解力や基礎的な語彙力は十分に定着しています。特に、文章の内容を正確に読み取り、情報を整理して理解する力は、日々の授業や読書活動の積み重ねが成果となって表れています。一方で、自分の考えを文章で整理して表現する力（71.5%）や記述式問題（62.5%）への対応にはまだ伸びしろがあり、今後の重点課題です。

学習指導にあたっては、文章と図表や資料を結び付けながら読むことの大切さを意識させています。読む目的を明確にすることで、文章の要旨や必要な情報を見付けやすくなり、情報を整理してまとめる力や、自分の考えを根拠をもって表現する力の育成につながります。必要な情報は、読む目的によって変わるため、目的に応じて取捨選択し、整理してまとめる経験を積むことが重要です。

学校では、読んだ内容をもとに自分の意見を整理して文章にまとめる学習を充実させるとともに、話し合いやグループ活動で出た意見を文章化する取組を積極的に行っています。こうした活動を通して、考えを言葉にする力や、理由や根拠を添えて伝える力を育てています。ご家庭でも、読書や日常の出来事を題材に、「どう思った?」「なぜそう思う?」と問い掛けることで、子供たちが自分の考えを言葉や文章で表現する力を更に伸ばすことができます。また、簡単な感想や日記を書く際に、理由や根拠を書く習慣を付けると、文章力が更に向上すると考えられます。

(2) 算数について

問題の領域別正答率

分類	区分	対象設問数	平均正答率(%)		
		(問)	本校	東京都	全国
全体		16	67.0	64.0	58.0
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	74.3	68.3	62.3
	図形	4	60.3	61.2	56.2
	測定	2	65.4	60.5	54.8
	変化と関係	3	68.6	64.9	57.5
	データの活用	5	71.9	67.6	62.6
評価の観点	知識・技能	9	74.6	70.9	65.5
	思考・判断・表現	7	57.7	54.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0	－	－	－
問題形式	選択式	6	74.5	73.5	67.2
	短答式	6	74.4	69.3	64.0
	記述式	4	45.4	40.7	34.9

<分析>

算数の平均正答率は 67.0% で、全国平均 (58.0%)、東京都平均 (64.0%) を上回りました。数と計算 (74.3%)、変化と関係 (68.6%)、データの活用 (71.9%) などの分野で高い成果が見られ、計算力や数量の理解、資料の読み取りなどの基礎力は安定しています。短答式や選択式問題でも全国平均を上回る正答率を示しており、基本的な知識や技能はしっかり身に付いていることが分かります。また、これまでの授業や家庭学習で積み重ねてきた努力の成果が表れており、児童の学習意欲や理解度の高さを感じることができます。

一方で、図形 (60.3%) や測定 (65.4%)、記述式問題 (45.4%) では課題があり、文章で考えを整理する力や、図形の作図や性質の理解をさらに伸ばす必要があります。図形や測定の学習では、問題を図や表にまとめたり、手を動かして具体的に考えたりする経験を重ねることが理解を深めるポイントです。また、作図の手順や方法と図形の性質を関連付けて理解することも重要で、学校では一人一人が図形の性質に基づいて説明したり、文章で考えをまとめたりする活動を取り入れています。これにより、思考力・判断力・表現力を総合的に育てる授業を実施しています。ご家庭では、図形や数量に関する話題を日常に取り入れ、答えだけでなく「どう考えたか」を言葉にして話す習慣を付けることで、学校で学んだことの理解を更に深めることができます。また、簡単な図形の作図や測定の問題を一緒に考えるなど、家庭での関わりも学力向上につながります。こうした経験を積み重ねることで、基礎学力を維持しつつ、思考力・判断力・表現力をより高めることができます。

(3) 理科について

問題の領域別正答率

分類	区分		対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	東京都	全国
全体			17	65.0	60.0	57.1
学習指導要領の 区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする 領域	4	57.2	49.9	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	55.8	53.7	51.4
	B 区分	「生命」を柱とする領域	4	63.2	54.1	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	68.9	69.1	66.7
	評価の観点	知識・技能		8	62.3	57.7
思考・判断・表現		9	66.8	61.2	58.7	
主体的に学習に取り組む態度		0	－	－	－	
問題形式	選択式		11	62.1	57.9	54.7
	短答式		4	79.1	70.6	69.7
	記述式		2	50.0	46.6	45.2

<分析>

理科の平均正答率は 65.0% で、全国平均 (57.1%)、東京都平均 (60.0%) を上回りました。「地球」を柱とする分野 (68.9%) で特に高い成果が見られ、生命 (63.2%)、エネルギー (57.2%)、粒子 (55.8%) の分野も全国平均を上回っています。基礎知識や観察・実験を通じた理解は安定しており、日々の授業や学習の積み重ねの成果が表れています。しかし、全国平均や東京都平均よりも上回っていても、7割まで到達はしていません。特に記述式問題 (50.0%) や自分の考えを文章で説明する力には伸びしろがあり、観察や実験の結果から「なぜそうなったのか」を自分なりに考察し、結論を文章でしっかりまとめる力を更に伸ばしていくことができると考えます。学校では、各領域の知識や観察結果を整理して文章化する活動を通して、考察や結論を丁寧に書く指導を行い、思考力・判断力・表現力を総合的に育てることを目指しています。ご家庭でも、自然現象や科学ニュースなどを題材に、「なぜそうなるのか」「どう考えたのか」を問い掛け、文章でまとめる習慣を取り入れることで、学校で学んだ考察力や表現力の定着に役立ちます。こうした経験を積み重ねることで、理科の学習における問題解決能力も更に伸ばすことができます。